

令和4年度

和歌山県地域医療支援センター
早期学会参加研修報告書



第84回 The 84th Annual Meeting of
the Japanese Society of Hematology

日本血液学会学術集会



2022/10/14(金)→16(日)

|| 会場 || 福岡国際会議場

|| 会長 || 赤司 浩一 (九州大学)

Web視聴サイト

【使用ブラウザ:Google Chrome推奨】

オンデマンド配信

2022年10月24日(月)～11月30日(水)

開催場所



福岡国際会議場



福岡サンパレス



マリンメッセ福岡 B 館

学生宿泊先

ホテル名：コンフォートホテル博多

場 所：〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 2 丁目 1-1



実施項目

●研修の目的

- ・ 学生時代から日本国内における最先端の医学・医療に触れることで、将来像をイメージする
- ・ 先輩の先生方の研究発表を聞き、知見をひろげる。
- ・ 学会とはどんなものか体験する

●参加者

- ・ 地域医療枠 2 年生 5 名
- ・ 県民医療枠 2 年生 3 名
- ・ 県民医療枠 3 年生 3 名
- ・ 県民医療枠 5 年生 2 名 計 13 名

●開催概要・開催形式

【名称】

第 84 回日本血液学会学術集会

【会期】

現 地：2022 年 10 月 14 日（金）～16 日（日）

Web 配信：2022 年 10 月 24 日（月）～30 日（水）

【会場】

福岡国際会議場 福岡県福岡市博多区石城町 2-1

福岡サンパレス 福岡県福岡市博多区築港本町 2-1

マリンメッセ福岡 B 館 福岡県福岡市博多区沖浜町 2-1

【開催方式】

ハイブリッド開催（現地および Web 参加が可能）

参加者名簿（現地参加：12名、Web参加：1名）

学年	氏名	参加プログラム
県民医療枠 2年生	安藤 光基	・モーニングセミナー2-8 ・シンポジウム4：血栓性疾患の病態解析・治療の進歩 ・ランチョンセミナー2-6 ・教育講演2-3D：分子病態を基盤とする多発性骨髄腫の治療戦略 ・一般演題2-5D：貧血/骨髄不全症・臨床研究2
地域医療枠 2年生	石田 聖葉	・モーニングセミナー2-3 ・教育講演2-3A：次世代型CAR-T細胞療法の開発動向 ・優秀ポスター賞2：優秀ポスター2
県民医療枠 2年生	沖見 瑚々	・モーニングセミナー2-3 ・教育講演2-3A：次世代型CAR-T細胞療法の開発動向 ・優秀ポスター賞2：優秀ポスター2
地域医療枠 2年生	中西 歩登	・モーニングセミナー2-2 ・シンポジウム4：血栓性疾患の病態解析・治療の進歩 ・ランチョンセミナー2-6 ・教育講演2-3D：分子病態を基盤とする多発性骨髄腫の治療戦略 ・一般演題2-4D：造血幹細胞
地域医療枠 2年生	中西 晴奈加	・モーニングセミナー2-12 ・一般演題2-12A：B細胞リンパ腫：基礎 ・教育講演2-11C ・ランチョンセミナー2-9 ・一般演題2-9C：中枢神経原発リンパ腫：臨床 ・イブニングセミナー2-7 ・モーニングセミナー3-12 ・教育講演3-12A：小児骨髄不全症の形態診断
地域医療枠 2年生	樋上 和真	・モーニングセミナー2-1 ・一般演題2-7A：骨髄腫：移植療法 ・一般演題2-7B：骨髄腫：類縁疾患・合併症 ・ランチョンセミナー2-6 ・一般演題2-10C：発熱性好中球減少症／細菌感染症
県民医療枠 2年生	山下 愛絵	・モーニングセミナー2-12 ・一般演題2-12A：B細胞リンパ腫：基礎 ・教育講演2-11C：小児、思春期及び若年成人に発症した急性T細胞性リンパ性白血病の治療開発 ・ランチョンセミナー2-9 ・一般演題2-9C：中枢神経原発リンパ腫：臨床 ・イブニングセミナー2-7 ・モーニングセミナー3-12 ・教育講演3-12A：小児骨髄不全症の形態診断
地域医療枠 2年生	吉益 実咲	・モーニングセミナー2-12 ・一般演題2-12A：B細胞リンパ腫：基礎 ・教育講演2-11C：小児、思春期及び若年成人に発症した急性T細胞性リンパ性白血病の治療開発 ・ランチョンセミナー2-9 ・一般演題2-9C：中枢神経原発リンパ腫：臨床 ・イブニングセミナー2-7 ・モーニングセミナー3-12 ・教育講演3-12A：小児骨髄不全症の形態診断
県民医療枠 3年生	伊藤 謙介	・モーニングセミナー2-4 ・ランチョンセミナー2-10 ・教育基礎2-3F：多発性骨髄腫における非移植適応患者の評価と治療
県民医療枠 3年生	川田 純平	・モーニングセミナー2-4 ・ランチョンセミナー2-10 ・教育基礎2-3F：多発性骨髄腫における非移植適応患者の評価と治療
県民医療枠 3年生	脇村 一輝	・教育講演2-3A：次世代型CAR-T細胞療法の開発動向 ・教育講演2-3B：iPS細胞からのT細胞再生と同種CAR-T療法、TCR-T療法の開発 ・教育講演2-3C：EBウイルス関連リンパ腫に対するiPS細胞由来若返りCTL療法－実臨床に向けた我々の取り組み ・ランチョンセミナー2-10 ・一般演題2-12C：CAR-T細胞療法：基礎
県民医療枠 5年生	岡 亮太	・モーニングセミナー2-8 ・一般演題2-7A：骨髄腫：移植療法 ・教育講演2-3C：EBウイルス関連リンパ腫に対するiPS細胞由来若返りCTL療法－実臨床に向けた我々の取り組み ・ランチョンセミナー2-3 ・Plenary Session
県民医療枠 5年生	林 茉里	・教育講演 2-3D：分子病態を基盤とする多発性骨髄腫の治療戦略 ・教育講演 2-8E：拳児希望のある慢性骨髄性白血病患者の治療 ・Clinical Debate 2 悪性リンパ腫

日本血液学会に参加して

医学部2年 県民医療枠 安藤光基

私は10月14(金)~16日(日)に福岡国際会議場、福岡サンパレス、マリンメッセ福岡B館で開催された第84回日本血液学会学術集会に参加させていただきました。参加したのは15日(土)の1日だけでしたが、今まで習ったことがこれからの勉学に繋がることを再確認できたと思います。学会は医師や医学研究者の研究発表及び知見の拡大等を行っている場であり、新たな治療法や検査方法を学ぶ場所であると感じました。また、企業展示にも参加しましたが、いろいろな企業が新薬の作成や手術機器の作成、診断補助機器の作成など様々な方面から医療をサポートしてくださっていることも身にしみて感じました。将来、医師として働くと新しい治療法や検査方法、薬剤、手術機器は次々に出てくるため、患者さんへのよりよい治療を提供するには医師としては働く間常に自己研鑽に努めようと思います。

今回の学会で特に印象に残ったのは、シンポジウムで発表してくださった Jean Marie Connors 医師の covid-19 と抗凝固剤に関わる話の中で、covid-19 の治療に抗凝固剤の使用は良くなかったと結論づけていた部分です。Covid-19 と抗凝固剤が関連するとは思いませんでしたし、結果にがっかりしたということも知見に大事だと思えば発表するのだと驚きました。

セミナーやシンポジウム、一般演題を聞き、生理学や生化学で学んだ血液凝固のカスケード反応や細胞生物学での病気の遺伝の話など今学んでいる基礎医学の重要性と臨床医学が基礎医学の知見の上に成り立っていることを再認識するとともに、基礎医学の勉強への意欲が高まりました。また、私の参加したシンポジウムでは発表がすべて英語であり、自分の英語力ではすべてを理解する事はできず、さらなる英語の勉強が必要だと感じます。そして、ポスター発表では自分たちが将来診療するだけでなく、遺伝子単位での研究や in vitro での研究も行っていかなければいけないこと、そのためには自ら研究対象や課題点を見つける気持ちを持たなければならないことが大事だと感じました。

最後に、本学会の引率をしてくださった蒸野先生始め諸先生方及び地域医療支援センターの皆様、このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



第 84 回 日本血液学会学術集会 参加報告書

和歌山県立医科大学 医学部 2 年生

石田 聖葉

《体験してきたこと》

モーニングセミナー、教育講演、一般演題、医薬品会社の展示、ポスター展示など、行われていた講演や展示を会場の雰囲気を知りながら見させていただいた。

《詳細》

モーニングセミナーが私にとって初めての学会講演であったが、大学の授業のようだという印象を受けた。いつも授業をしてくださっているのも先生方なので当たり前かもしれない。教育講演は比較的わかりやすいと言われていたけれど、今の私ではついていけないことの方が多かった。反対に授業で勉強した内容や言葉が出てくることがあって、断片的にでも分かる部分があったのでもっと理解したいと思った。一般演題は演題によっては英語で発表されている先生もいて、医学の勉強だけでなく英語も勉強したいと強く思った。

各講演の終わりには質問の手が次々に挙がり、先生方の勉強しようという前向きな姿勢が見えた。印象的だったのは、一般的に言われている完治のラインよりも長い時間薬を投与して完治した例も多いことを実際の患者さんのデータを提示して、長い治療も検討すべきかもしれないとした発表だ。これを聞いて医療における常識は更新されていくのだと感じた。私たちがいつも受けている授業内容もこのように新しくなっていくのだと感じた。

医薬品会社の展示では家族型ロボットの LOVOT(らぼっと)と触れ合うことができた(写真)。マリンメッセ B 館にはポスターが展示されていた。整った図や写真を用いて、教科書のように思った。講演もそうだが研究内容を人に伝える能力も大切なのだと感じた。

《最後に》

全体を通して、やはり 2 年生の今の時点では学会は難しいという感想がいちばんにきてしまう。ただし、生化学や生理学で勉強した単語だとか、組織学で見た顕微鏡画像みたいだとか、これまで勉強してきた自分たちが知っていることを先生方も話している様子を見ると、この学習が将来生かされるのだと実感できた。そしてもうひとつ、英語も勉強したい。言語が変わると講演を聞く難易度が大幅に上がるように感じた。せっかく知識を得られる機会があるので、英語でも理解できるようになりたいと思う。2 年生の時点では理解できないことが多くあったが、学会に参加させていただいて会場の雰囲気を知ることができたのは本当に良い体験だったと思う。日々の勉強に対するモチベーションが上がり、次に参加できる機会があれば今回よりも理解できるようになりたいと思った。

最後に、地域医療支援センターの蒸野先生をはじめとする先生方、貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。



2022 年 10 月 30 日

和歌山県立医科大学地域医療支援センター様

医学部医学科 2 年 沖見瑚々

第 84 回日本血液学術集会報告書

2022 年 10 月 15 日（土曜日）、「第 84 回日本血液学術集会」に参加いたしましたので、下記の通り報告いたします。

敬具

記

参加目的

1. 学生時代から日本国内における最先端の医学・医療に触れることで、将来像をイメージする。
2. 学会とはどのようなものか体験する。
3. 先輩の先生方の発表を聞く。

参加内容

1. モーニングセミナー
2. 教育講演
3. 一般講演
4. シンポジウム
5. ポスター
6. 医薬品・医療機械展示

所感

今回の学会参加では、最先端の医学・医療に触れ、「血液」に関わる人々の多さとその規模の大きさを知ることができました。まだ知識が乏しく、発表内容を理解することはできませんでしたが、学会に参加する先生方の貪欲に知識を吸収する姿勢を目の当たりにして、これからの学生生活や医師となっても、自ら学び続ける人材になろうと決意しました。最後になりましたが、この度はこのような素晴らしい機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

添付写真

学会参加時（10 月 15 日）の集合写真

以上



第 84 回日本血液学会学術集会参加報告書

地域医療 2 年 中西歩登

1. 参加理由

今回の第 84 回日本血液学会学術集会（以下、学会と略す）へ参加した理由は自身が目指している血液内科において、医師が実際に参加する学会を見学し、将来に対してのビジョンをより明確にしたいという思いが存在したからであり、また学会に参加し実際の雰囲気を味わうことで自身の勉強のモチベーションとなることを期待した。そのために学会参加への申し込みをさせていただいた。

2. 実際に参加して

● 会場内の様子、雰囲気

朝早い時間からの参加だったが数多くの方々が参加しており、医師同士や企業と医師などの様々な交流場面が見られた。またセミナー内などでの質疑応答では様々な著名な先生方の非常に高度な知識のやり取りを見ることができた。

● 内容

セミナーやシンポジウム、講演の内容については、自身の持つ知識のみでは理解が難しいものが多かったため、割愛させていただくが、内容によっては基礎の部分で講義などですでに習ったものがあり、実際に基礎医学から応用医学への橋渡しが行われている部分を見ることができた。

またポスター展示では様々な病気の患者に対しての治療法や経過を書いたものがあり、また内容については知識不足のものが多く見られたが、実際に講義で習った染色法が実際に用いられたり、習った病気を扱っていたりしていた。

● 所感

セミナーやシンポジウムやポスターの内容は難しかったが、ところどころ理解できる場面もあり、さらなる自身の勉強面での努力の必要性や今習得している知識の重要性を非常に強く認識することができ、これからはより一層勉学に励もうと思えた。また企業説明会では無菌室などの医療器具の説明を聞くことができ、実際に現場でどのようなものが存在しているかを、そして医者だけでは医療が成り立たないことを再認識することもできた。総じて会場内の実際の雰囲気を存分に味わうことができ、貴重な経験をさせていただけたと感じた。

3. 謝辞

今回の学会に参加するにあたって参加許可を下さった上野先生、また事前オリエンテーションや当日の学生の管轄をしてくださった蒸野先生、そして様々な事務仕事を行ってくださった奥口様や地域医療センターの皆様に拝謝申し上げます。

4. 会場の様子（写真）



図 1 学会の標題



図 2 企業説明会やポスター掲示の会場

福岡で開催された第 84 回日本血液学会学術集会の第 2 日目と第 3 日目に参加しました。1 日目は、まず B 細胞リンパ腫についての一般口演を聞きました。内容はとても難しく、知っている言葉が数個程度でしたが、1 演題 10 分ずつくらいだったので聞きやすく、集中が切れにくかったです。発表後の質疑応答の時に座長の方がいろいろな質問をたくさんしていて難しい口演の内容をきちんと理解して適切な質問をしていたのが印象的でした。その後、「小児、思春期および若年成人に発症した T 細胞性急性リンパ性白血病の治療展開」についての教育講演を聞きました。内容はよくわかりませんでしたが、新しい治療法や今ある治療法を発展させるための研究が行われていることが分かりました。そのあと、ランチョンセミナーに参加しました。お弁当がとても豪華でおいしかったです。昼食後、医薬品・医療機械展示会場とポスター会場に行きました。ポスター展示では和医大の先生方のものを見つけました。展示会場ではアンケートに答えると飲み物やラップなどをもらえました。アンケートは医師向けのものが多かったので薬についてなどきちんと答えられるものが少なかったのにいろいろもらったりして少し申し訳なかったです。そのあと、「骨髄繊維症に対する移植治療の現状と課題」についての教育講演を聞きました。その後イブニングセミナーを聞いて帰りました。

2 日目は、まずモーニングセミナーに参加しました。講演内容を知らずに適当に入った会場が外国の方の英語の講演で、はじめは入る会場を間違ったと思いました。発表者の外国の方の英語が流暢なのはもちろんのことですが、話し方がとても上手で引き込まれるような感じだったので講演の内容はあまり理解できませんでしたが、この講演を聞いて良かったなと思いました。そのあと、「CAR-T 細胞療法：基礎研究から臨床、そしてまた基礎へ」の講演を少し聞きました。この講演も英語だったので難しかったです。そのあと、ランチョンセミナーに参加して帰りました。

学会にはじめて参加して、学会に参加している人の多さや会場の広さに驚きました。2 年生で医学の勉強をまだあまりしていないので学会での内容を理解することは難しかったですが、学会の雰囲気などを味わえたので参加してよかったなと思いました。また、はやく学会での講演内容などを理解できるようになりたいとも思いました。機会があればまた学会に参加したいと思います。



血液学会参加レポート

医学部地域医療枠 2 年 樋上和真

1. はじめに

今回、10月15日に福岡県で行われた第84回日本血液学会学術集会に参加させて頂いた。このレポートでは実際に現地の会場に行ってみて見学した内容や感じたことについて報告する。

2. 見学内容

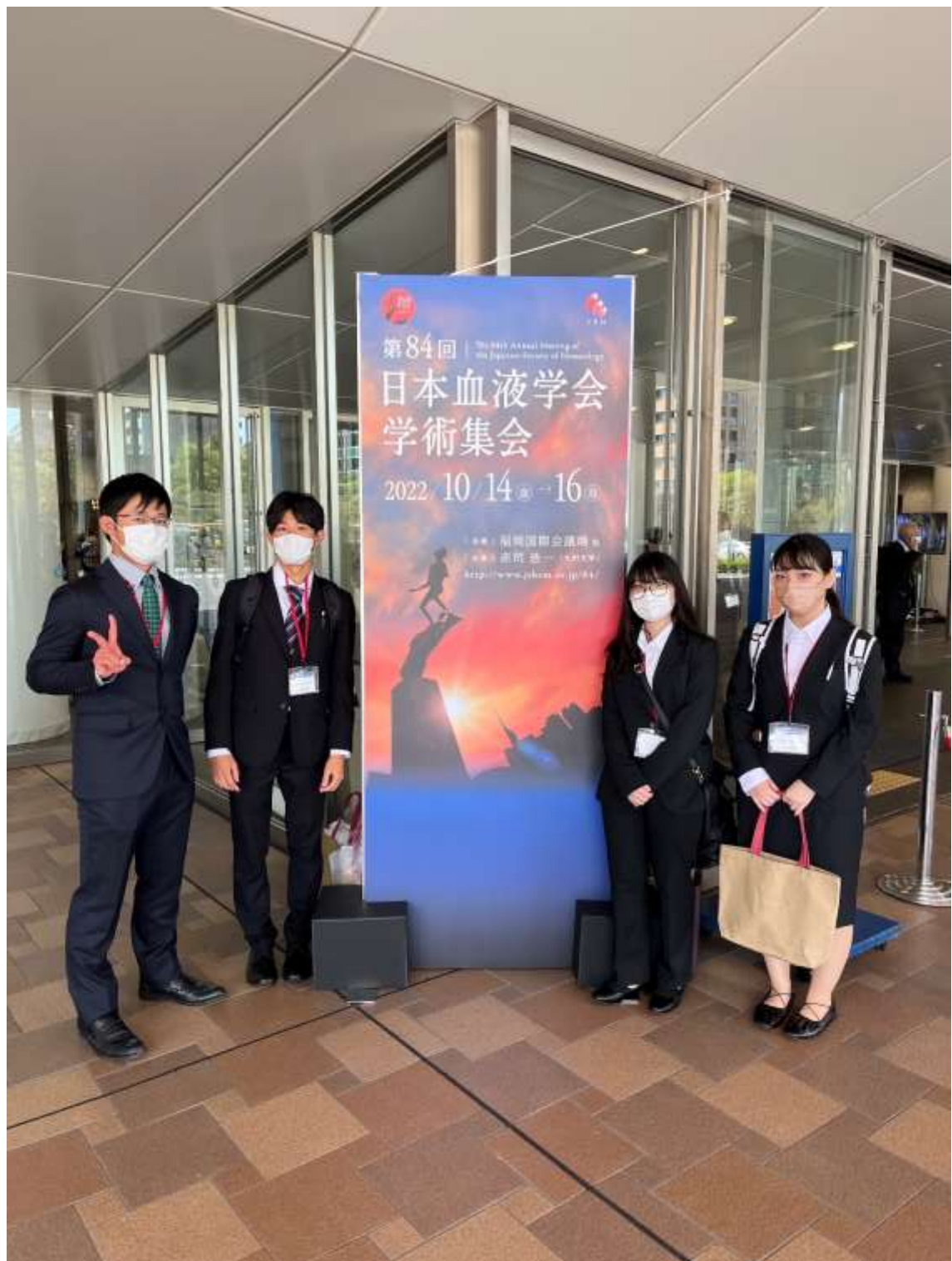
会場である福岡国際会議場につくとまずモーニングセミナーに参加した。メイン会場で行われたセッションに参加し、多発性骨髄腫の最新治療について講演を聞かせていただいた。その後、骨髄腫の移植療法の臨床研究や症例についてのセッションや、最新のクリニカルシーケンスの技術に関する英語でのセッションなど様々な会場を回った。また別会場でのポスターセッションに参加したり、様々な企業のブースを訪れたりした。

3. 感じたこと

今回は初めての学会参加だったので、なにもかもが新鮮だった。会場で発表・議論されている内容に関しては、私はまだ基礎医学を学んでいる段階であることもあり難解なものが多かったが、それでも血液凝固関連の単語や検査結果の正常値のなど自分の聞いたことのあるフレーズが用いられていた。自分が今講義などで学んでいることが将来につながっていることを実感し、これからの勉強の非常によいモチベーションになった。また、学会に参加して初めて、大学病院や医療センターはただ治療を行うだけでなく膨大な数の症例解析を行っていることを知り、非常に驚いた。多発性骨髄腫のセッションでは、プレゼンのスライドは見やすいものが多く、参加者が積極的に研究結果に対する自らの考えや質問を投げかけるとすぐに発表者がスラスラと回答しておりレベルの高さを実感した。英語で行われたオーラルセッションではアメリカの研究者がオンラインで講演し、参加者が英語で積極的に質問し議論を交わしていた。DNAに関する事柄など、扱われている内容は断片的に理解できたものの、自らの英語力のなさを痛感した。自分は普段大学の勉強や簿記などの資格試験の勉強をし、家や大学、部活やバイト先を行き来するだけの生活を送っていたので非常に刺激的な時間だった。将来的に自分も海外の医師や研究者と英語で対等に話ができるようにならなければならないと改めて感じたのに加え、自分がそうなるために今何ができるのかを考え直すよいきっかけとなった。

4. 謝辞

今回学会への参加という貴重な機会を私たちにお与えくださった先生方、地域医療支援センターの皆様、この場をお借りして御礼申し上げます。私は「今学んでいる内容は将来役に立つのだ」と思いながら大学での勉強に励んできましたが、具体的にそれがどう役立つのかよく分からずにいました。実際に学会に行ってみて自分が基礎医学で学んだ内容が扱われている現場を目の当たりにしたことで、改めて今勉強している内容のおもしろさに気づくことができました。今後基礎医学、臨床医学の学びを深めた後に、他の診療科の学会にも参加してみたいです。本当にありがとうございました。



学会参加研修レポート

医学部 2 年 山下愛絵

2022 年 10 月 15 日（土）・16 日（日）に福岡国際会議場、福岡サンパレス、マリンメッセ福岡 B 館で行われた第 84 回日本血液学会学術集会に現地参加した。15 日は「B 細胞リンパ腫：基礎」、「ランチョンセミナー」、「教育講演 2-8F」、「イブニングセミナー」に参加した。16 日は「モーニングセミナー」、「Towards the best management of MM」、「ランチョンセミナー」に参加した。一般演題の「B リンパ腫：基礎」は、全体では 1 時間あったが、1 人 10 分程度の発表だったのでテンポがよく、時間はすぐ経ったように感じた。空いた時間では展示会場でポスターや医薬品・医療機器の展示などを見学した。無菌室の展示をしているコーナーでは無菌室のレベルや陽圧室・陰圧室の内容を 2 年生でもわかるようにわかりやすく説明してくれた。今回の学会参加研修を通して大きく 2 つのことを学んだ。

1 つ目は現時点で学習していることは将来に直結するということだ。今回聴いた講演は、すべて内容が難しく、理解はできなかった。しかし、聞こえてくる単語は生化学や細胞生物学などの授業でも聞いたことがあるものであった。例えばウェスタン・ブロット法や核酸の合成経路であるサルベージ経路や de novo 経路などである。また、ポスターやスライドで示される組織像や染色方法は組織学の授業で習ったものであった。今まではテストにでるからという理由で勉強し、覚えるだけであったが、このように実際の現場でも使われていることがわかり、今の勉強が将来の研究や臨床につながっているということを頭で理解するだけでなく身をもって感じられた。医学の勉強が始まってまだ 1 年も経っていないが、すでに大切なことを学んでいるのだとわかったし、これからの医学の勉強にも気を引き締めて取り組んでいかなければならないと思った。

2 つ目は、英語は大切だということだ。16 日に聴いたモーニングセミナーは英語で発表していた。発表している人の英語はとても流暢で引き込まれた。発表者は外国の人だったから英語がうまいのは当たり前かもしれないが、質問者や座長などは日本人であるにも関わらず英語がペラペラだったのでやはり世界中の研究者と関わるには英語が必須で、英語を話せることで知見も格段に広がるのだろうと思った。日本で生活して、日本語で話すことが当たり前になっているが、このままではだめだと感じた。日本語でも理解するのが難しい学会内容を英語で理解するというのは難しい話かもしれないが、将来的にはそれができるようになりたいと思った。そのためには普段から英語に触れるのも大切だろうし、学生の期間中でも海外留学などを通して英語に触れたいと強く思うようになった。今とりあえずできることとしては iPhone の言語設定を英語に変更し、普段毎日触れるスマホで身近に英語に触れることができるようにした。また、今までは医学用語を仕方なく英語で覚えさせられているという認識だったが、英語で覚えるということは世界中の人とコミュニケーションを取れるチャンスが広がるのだという認識でこれから取り組んでいきたいと思った。

今回、実際に現地で学会に参加することができて全国から血液内科の専門家が集まっているのだと肌で感じ、学会というところは知識が詰まったところだと思った。自分が将来どの科を専攻するかわからないが、専攻した科の学会で、学会の内容を理解できるようになりたいと思ったし、1度は発表してみたいと思った。



マリンメッセ福岡 B 館の看板

学会参加研修報告書

医学部 2 年 吉益実咲

1. 参加したセミナー

10/15(土)

- ① 一般口演「B 細胞リンパ腫：基礎」
- ② 教育講演
- ③ ランチョンセミナー
- ④ 教育講演
- ⑤ イブニングセミナー

10/16(日)

- ① モーニングセミナー
- ② 英語発表「CAR-T therapy from the bench to the clinic and back」
- ③ ランチョンセミナー

2. 考察

今回初めて学会に参加させて頂き、学会の雰囲気や学会への姿勢など様々なことを学ぶことができました。また、セミナーに関しては、モーニングセミナーと英語発表での英語の講演がとても印象に残りました。というのも、私は、オールイングリッシュの講義などを受けたことがないので不安でしたが、実際受けてみると、とても興味深く、医学における英語の重要性を感じるとともに海外の学会への参加も挑戦したいと思いました。また、一般講演は 1 演題が 10 分ずつほどでその後の質疑応答もあり、とても簡潔に進行していたので、学生である私でも聞きやすいなと感じました。また、ポスター閲覧では、今第 2 解剖で学んでいる HE 染色や鍍銀染色などを用いたポスターもいくつかあり、今の勉強が医学の世界につながっていることを改めて感じることができました。

3. 謝辞

今回初めて学会に参加させて頂き、大学の講義とはまた異なる学会の雰囲気やセミナーの様子などを学ぶことができ、医師になるために勉強するうえでとても貴重な経験をさせて頂きました。このような機会を設けて頂いた地域医療支援センターの皆様に感謝申し上げます。



第84回 | The 84th Annual Meeting of
the Japanese Society of Hematology

日本血液学会 学術集会

2022/10/14(金)~16(日)

会場：マリンメッセ福岡B館

※会場：福岡市（西区内）

<https://www.jshcm.jp/84/>

日本血液学会学術集会

マリンメッセB館

12階～15階
バスロービー・登録係
ロビー・エントランス
このフロアより
ご入館いただけます
(登録係は通入していただき
ます)

参加者バスを
お持ちの方及び
学会関係者以外
館内立ち入り
できません

日本血液学会学術集会報告レポート

和歌山県立医科大 3 年出席番号 007 伊藤謙介

2022 年 10 月 15 日（土曜日）に行われた日本血液学会学術集会に参加した。その事について肌身で感じたことを報告レポートとして書いていく。私は医学部に入り 3 年間コロナ禍の生活であり医学生らしい生活を送ることができなかった。その中で今回学会に参加できるという話を伺い是非参加したいと思い参加を決めた。会場に着くと思ったより規模大きく多くの教授や医学生の方が参加していて驚いた。私が参加したのはモーニングセミナー・教育講演・ランチョンセミナー・であったが 1 日に高度な知識に触れる経験は中々なく相当疲れたが充実していました。また学会前に参加した病棟実習で血液内科を回る機会があったのですが、その際に教わったことの応用などを説明していて日々の学習がこのようなところで繋がるのだと大学での学習に対するモチベーションが上がりました。内容に関してはかなり難しいことを言っていたので理解できた部分は少なかったのですが必ず後学に繋がるものと信じて日々の学習に取り組んでいきたいと思いました。コロナ禍で鬱々としていた大学生活でしたが、学外での学習に取り組むことで気分が一新したしこれからの学習意欲が上がりました。次の機会があればまた参加したいです。最後にこのように学会に参加する機会をくれた和歌山県立医科大学、また付き添ってくれた先生方ありがとうございました。これからも貪欲に学習に取り組んでいきたいです。

モーニングセミナーでの学会様子と昼休憩の集合写真を貼っておきました



第84回日本血液内科学会学術集会参加レポート

医学部3年 川田純平

今回私は福岡で開催された血液内科の学会に参加する機会をいただいた。本学では3年生まではほぼ基礎医学の授業のみが行われ、臨床医学に関する知識は極めて乏しい中で参加する運びとなり若干の不安を抱えながらの参加となった。

こうした経緯もあり今回の学会参加の趣旨は、学術的に見聞を深めることはもとより、医師になった後に学会に参加する際のイメージや現場の雰囲気を感じ取ることに主眼を置くこととなった。

会場入りした後すぐに目についたのが大量においてあったパンフレットである。そこには各演者の肩書きや所属、研究内容などが所狭しと並んでいた。次に午前のセッションを聴講しに会場に向かったのだが出席者の数はあまり多くなく、朝食をつまみながら聞いている人から熱心にメモを取っている人までさまざまであった。その後4つくらいの講演を聞くことになっていたが、どの講演についても共通していることは発表される演者の先生方の熱量であった。普段の忙しい業務の合間を縫って資料を作成されていることは想像に難くない。自分自身も医師になった後に発表の機会が訪れた際には自信を持って発表できるように研鑽を磨かなければと痛感した。

全体的に見て、医学の学会と聞くと医師や医学研究者の方々のみが参加するものであると考え込んでいた節があったが、実際にはメディア関係の人がいたり、製薬会社の人がたくさんいたりと様々な医療に携わる業種の人々が参加する場であるのだと感じた。弊学関連の発表も見させて戴きとても意義深い機会であった。このような機会を与えてくださった大学に感謝したいと思う



3 回生 脇村一輝

暑い夏の日差しが和らぎ、秋風が心地よく過ごしやすい季節に、2022 年第 84 回日本血液学会が福岡国際会議場で開催されました。10 月 14 日、15 日、16 日に開催された学会でしたが、私は 15 日のみ参加しました。コロナウイルス感染症の流行が小康状態となり、前回の学会は完全オンライン開催だったそうですが、今回はオンサイトで開催することができ、会場はにぎわっていました。

この学会は日本の血液内科の学会で最も大きな学会であり、基礎研究、臨床研究ともに様々な分野の発表が行われていました。その中で私が拝聴したのは主に基礎研究の CAR-T 療法に関する発表でした。というのも、ちょうど大学入試を受けるころ、CAR-T 療法の治療薬ノバルティスファーマのキムリアが保険適用されたと大きなニュースになっていて、非常に高価な医薬品だと印象に残っていたのと、基礎配属で改正先生の研究室に所属し、免疫学を勉強しているので、基礎研究の発表なら理解できるかなと思ったからです。結果、何とか理解することができて幸いでした。最新の CAR-T 療法である dual-CAR-T や TCR-T 療法、iPS 細胞技術を用いた T 細胞の若返り戦略、セルバンク構想など、最新の B 細胞腫瘍に対する治療戦略や研究の成果を発表されていました。ウイルスベクター、iPS 細胞技術など、最新の遺伝子工学技術が詰まった治療はマウスでの研究ではあるものの、結果も非常によく、ヒトでの研究もいち早く望まれるところです。今後、B 細胞腫瘍の治療はさらに発展していくのではないかと思います。セルバンク構想についても面白い話を伺うことができました。セルバンク構想とは、患者の体から取り出した細胞を保存しておく施設を作ろうという構想ですが、複数の大学が設立を急いでいるというのに驚きました。現在でも、臍帯血を保存しておく臍帯血バンクや生殖細胞、幹細胞を保存しておく施設はすでに全国に数か所あるものの、各大学病院内に設立されるのは画期的なことだと思います。B 細胞腫瘍は再発する確率が高く、従来の薬物療法では根治が難しく、骨髄移植が検討されることもあり、ドナーを探さなければならないなど患者さんにとって負担が大きい病気です。患者さんから採取した T 細胞を保存しておき、再発したら CAR-T 療法が実行できるというのは患者さんにとって心強いことだと思います。

まだ学生で理解できない発表もありましたが、最先端の B 細胞腫瘍治療の研究を学べたのは非常に有意義なものでした。学会参加をサポートしてくださった奥口さん、蒸野先生に感謝申し上げます。



第 84 回日本血液学会学術集会参加研修レポート

学籍番号：1866023 氏名：岡 亮太

この度は、第 84 回日本血液学会学術集会に参加させていただき、本当にありがとうございました。医学部の学生になって初めて学会に参加し、貴重な体験をすることができました。今回の経験で、様々な事に気づき、考えることができました。特に重要だと感じた 2 点について、以下に示していきたいと思います。

まず、改めて基礎医学についての深い知識が、日々の臨床の現場において、とても大切なことが理解できました。参加させていただいたほとんどのプレゼンテーションにおいて、分子生物学や、免疫学、生化学、生理学などについて触れられており、それらの複雑なつながりが疾患の治療に直結し、患者さんの予後に大きく関わっていることが発表されていました。発表や講演の中でも特に、最新の分子標的薬の治療結果などを説明される際に、膜たんぱく質やリガンド、遺伝子などの細かい専門用語が多用されており、内容の理解に苦しみ場面もたくさんありましたが、今回の経験を活かし、これからの臨床実習では、臨床医学についてはもちろん、基礎医学について疾患と大きく関連する内容についての復習をしっかり行った上で、その都度重要な知識を再確認し、学習の質をさらに向上させていきたいです。

さらに、今回は、発表から質疑応答まで、その全てが英語で行なわれるセッションにもいくつか参加させていただきました。参加したセッションの中でも特に、AML の研究発表をされていた、佐賀大学 血液呼吸器腫瘍内科の西田 有毅先生が、とても流暢な英語でプレゼンされ、質疑応答もスムーズにされ、コメンテーターのアメリカ人の先生が outstanding と素晴らしい評価をされている姿を見ることができ、とても感動しました。改めて、英語で自分の研究結果を分かりやすく伝えることはとても重要であるという認識ができました。自分の場合、来年の短期臨床留学に向けて、スピーキングとリスニング能力を特に飛躍させていき、海外の先生方や学生と、円滑なコミュニケーションをとった上で、もし研究発表を拝聴できる機会がいただければ、意欲的に質問をし、研究内容についてのディスカッションができるようになりたいです。

今回の学会参加は、医学の最先端の研究成果に触れさせていただける貴重な機会となりました。日々のポリクリでは、臨床医学についての知識を深めるとともに、患者さんへの診察やカルテ記載などの機会を与えていただき、実際の臨床現場の見学と体験をさせていただいていますが、同時に、その分野の最先端で行なわれている研究内容などについても、自分から積極的にアンテナを張り、最新の英語の論文などについても触れる姿勢を持ち続けたいと思います。

最後になりますが、第 84 回日本血液学会学術集会参加でお世話になりました、全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



令和4年度学会参加研修報告書

県民医療卒5年 林茉莉

この学術集会で、私は自治医科大学の古川雄祐先生による教育公演と、医療法人菊郷会愛育病院の近藤健先生による教育講演、そして京都第一赤十字病院の古林勉先生と神奈川県立がんセンターの高橋寛行先生によるクリニカルディベートを聴講しました。ここで、私が聴講しましたこれら3講演について報告致します。

まず、古川先生による講演は、分子病態を基盤とする多発性骨髄腫の治療戦略についての講義でした。多発性骨髄腫は14q転座または染色体の高二倍体化によって発症し、予後不良の14q転座のクローン進展様式は中立進化であるのに対し、予後良好の高二倍体化はダーウィンの枝分かれ型進化であるということをはじめて知りました。高二倍体化による発症であるならば、ストローマ依存性のため免疫抑制薬が有効ですが、14q転座では効果が弱く、プロテアソーム阻害薬が必要となるそうです。また、発症初期から多様なサブクローンが産生されますが、講義の途中でクローンの分化度と薬剤感受性の関係についてまとめた表が提示されており、ある種の抗体薬は全てのクローンに作用することも示されていました。このようにクローン進展様式や多様なクローンと薬剤感受性の関係を研究することによって、より効果の高い治療の提供が可能になっていることを学びました。

次に、近藤先生による講演は挙児希望のある慢性骨髄性白血病患者の治療についての講義でした。教科書的にCML患者にはTKIを投与すると学んでいましたが、TKI治療が妊孕性や妊娠に与える可能性についての知識が全くなく、今回の講義ではじめて知ることになりました。妊娠中も使用可能な治療薬としてIFN α がありますが、その速効性は期待できないとのことでした。10代から20代にCMLを発症する患者は一定数いますし、TFR開始までに数年の期間を有することを考慮すると、年齢が若いうちに卵子保存を提案することが重要であると思いました。

最後に、古林先生らによる講演は、悪性リンパ腫についての討論でした。クリニカルディベートを拝聴するのは今回がはじめてで、60人を超える先生方の投票結果を見て、先生によってこれほどに適切だと考える治療が違うものかと驚きました。ある症例に対し、二人の先生方がそれぞれ別の治療戦略をプレゼンテーションするという形式でしたが、ガイドラインだけでなく、さまざまな論文を引用して治療戦略を立てているのが印象的でした。私は今現在臨床実習を行っていますが、レポート課題を作成する際に、ガイドラインばかり参考にして治療について考察をしていました。しかし、実際には主治医の先生方はガイドラインのみならず、さまざまなデータを集め、それらを総合的に判断して治療を行っているということを改めて認識するきっかけになりました。

最後になりましたが、今回の学会参加の機会を設けてくださった地域医療センターの方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。